記　録

文書番号	SCJ 第２5期-050731-25400300-030
委員会等名	日本学術会議 基礎生物学委員会 動物科学分科会
標題	動物科学の普及に関する活動と課題
作成日	令和５年（２０２３ 年） ７月３１日

※　本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある

動物科学のみならず、全ての基礎研究分野において、博士後期課程（ドクターコース）への進学者数の減少が続いている。また、小、中、高生の理科離れが問題点として浮上して久しい。そのような状況において、国際的な課題である生物多様性の保全に関して、生物多様性についての動物学的視点からの理解を広めることも重要である。25期の動物科学分科会において、4回の会議において、動物科学の普及のための活動と課題について、特に（１）一般及び高校生、大学生向けの「生物多様性」の面白さを伝えるシンポジウムの企画・開催について、及び、（２）自然史博物館設置の重要性に関係して、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会の活動の支援、について議論を深めた。

（１）シンポジウムの開催について

開催趣旨：

さまざまな動物とそれらを取り巻く環境との関係や、共生に代表される多様な生物間の相互作用に関する研究成果は、動物科学の面白さを体感できるトピックスである。本シンポジウムでは、学生から一般社会の方々までを広く対象として、動物の多様性、生態、進化などに関する最新の研究成果を分かりやすく魅力的に解説することにより、動物科学の普及および振興をめざす。

開催回数：

新型コロナウイルス感染症拡大の問題もあり、1回開催済み、2回目が開催予定。

（I）公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」

2022/1/29（土）13:00～16:00、オンライン開催

13:00　趣旨説明

寺北　明久（日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授）

13:05「甲虫の多様性解明における最後の砦、ヒゲブトハネカクシ」

丸山　宗利（九州大学総合研究博物館准教授）

13:35「ゲノムから探る！母なる海から離れたトゲウオたちのサバイバル術」

石川　麻乃（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

14:05「アゲハチョウの訪花行動における視覚の役割」

木下　充代（総合研究大学院大学先導科学研究科准教授）

14:35～14:45　休憩

14: 45「動物の行動・生理を制御するフェロモン：ヒトにはあるか？」

東原　和成（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

15: 15「進化のなかで形はどう変わるのか」

倉谷　滋（日本学術会議連携会員、理化学研究所倉谷形態進化研究室）

15:45　総合討論

司会：深津　武馬（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所首席研究員）

16: 00　閉会

（II）（予定）動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（２）

日　時：令和５年（2023年）11月26日（日）13：00 ～ 16：00

オンライン開催

13:00　開会の辞

寺北　明久（日本学術会議連携会員、大阪公立大学大学院理学研究科教授・理学研究科長）

13:05『小笠原諸島の鳥類相変化とハンプティ・ダンプティ問題』

川上　和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所野生動物研究領域鳥獣生態研究室長）

13:35『コケと繋がる動物たちの知られざる生態と進化にせまる』

今田　弓女（京都大学大学院理学研究科助教）

14:05『なぜクマムシは極限環境に耐えられるのか？その謎を探る』

國枝　武和（東京大学大学院理学系研究科准教授）

14:35-14:45　（休憩）

14:45　ハダカデバネズミの長寿・抗老化・がん耐性・社会性の不思議

三浦　恭子（熊本大学大学院生命科学研究部教授）

15:15　個体発生は系統発生（進化）を繰り返す？繰り返さない？

入江　直樹（日本学術会議連携会員、総合研究大学院大学統合進化科学研究センター教授）

15:45　総合討論

（司会）深津　武馬（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所生物プロセス研究部門首席研究員）

16：00　閉会

（２）国立沖縄自然史博物館設立準備委員会の活動の支援

平成28年（2016年）5月に発出した提言、「国立自然史博物館設立の必要性」（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会、自然史財の保護と活用分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会）を受けて、23期の動物科学分科会において国立自然史博物館設立をバックアップしていくことを取り決めた。

それを受けて、25期においても、国立自然史博物館設立に関する情報を共有し、議論した。具体的には、マスタープラン2020（重点大型研究計画）に採択された「国立沖縄自然史博物館の設立ー東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現による人類の持続可能性への貢献ー」の実施機関である一般社団法人 国立沖縄自然史博物館設立準備委員会からの報告を受けて、情報を共有するとともに、活発な意見交換を行った。

4回の動物科学分科会において、情報共有、意見交換がなされた主な点は以下の通りである。

・　平成28年（2016年）5月に発出した提言「国立自然史博物館設立の必要性」の内容確認とマスタープラン2020（重点大型研究計画）に採択された「国立沖縄自然

史博物館の設立ー東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現による人類の持続可能性への貢献ー」の具体的理解

- 「一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会」の組織化と設立の経緯
- 国立沖縄自然史博物館設立に関わる沖縄県との意見交換等の状況
- 令和4年5月に沖縄県が公表した「新・沖縄21 世紀ビジョン基本計画」における国立沖縄自然史博物館の具体的な位置付け等
- 沖縄県との連携で進める活動（シンポジウム、国立自然史博物館構想企画展、写真展等）
- 沖縄県の復帰50周年記念事業の一環としての国立自然史博物館誘致推進事業
- 誘致県民会議設置の動き等
- 学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に、「国立沖縄自然史博物館の設立―自然史科学の推進による自然の解明は人類の持続可能性に貢献する―」と題して応募（2022年12月）